

# CASBEE埼玉県

# 評価結果

使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版、CASBEE埼玉県2015年版 使用評価ソフト：CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社077狭山工場 製品自動倉庫 建設計画	階数	地上3F
建設地	埼玉県狭山市新狭山1丁目2-1、2-3の一部	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	24 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年4月 予定	評価の実施日	2017年4月11日
敷地面積	75,203 m <sup>2</sup>	作成者	村田機械 浜本
建築面積	3,487 m <sup>2</sup>	確認日	2017年2月2日
延床面積	14,467 m <sup>2</sup>	確認者	村田機械 福田



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.0</b> ★★★★★</p> <p>S: A: B+: B: C:</p>	<p>★★★★★</p> <p>30% 60% 80% 100% 100%超:</p> <p>標準計算</p> <p>参照値: 100%</p> <p>建築物の取組み: 51%</p> <p>上記+: 51%</p> <p>上記+: 51%</p> <p>0 46 92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア = 3.0</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 0.0</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 3.5</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> Q3のスコア = 2.6</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア = 3.0</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 2.8</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 2.8</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.5</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>既存建築への増築であり調和を図る為、建物高さ・企業をイメージした外壁の色彩を出来るだけ合わせた計画としています。また、施設としては、工場で製作した製品を、荷捌棟に自動搬送し、パレタイズ後、機械防震を採用した立体自動倉庫で一時的保管し、出荷する計画となります。必要時に必要な数の製品を安全・安心に提供できる仕組みとしています。</p>	<p><b>その他</b></p> <p>クリーンな工場をめざし、荷捌棟の開放部は、エアシェルターを設け、防虫対策に配慮しています。</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>対象外</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>工場建物になる為天井高が高く、床荷重に関しては大きく設計しています。</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b></p> <p>地表面に緑化を設けてあり、道路沿いの妻側は、既存建物と同様に企業をイメージした外壁色を採用しています。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>照明器具等は省エネタイプのものを選定しています。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>消火設備はガスは使わず消火器、屋内屋外消火栓を使用します。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>敷地周り全面に緑地を設けて建物を出るだけ中心に計画して日影の影響を考慮しました。また荷捌き用の駐車スペースを確保しています。</p>

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版、CASBEE埼玉県2015年版  
 株式会社ロッテ茨城工場 製品自動倉庫 建設計画

欄に数値またはコメントを記入

使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版、CASBEE埼玉県2015年版  
 評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>		-	-	-	-	-	-	-
<b>1.1 騒音</b>		-	-	-	-	-	-	-
<b>1.2 遮音</b>		-	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-
<b>1.3 吸音</b>		-	-	-	-	-	-	-
<b>2 温熱環境</b>		-	-	-	-	-	-	-
<b>2.1 室温制御</b>		-	-	-	-	-	-	-
1 室温		-	-	-	-	-	-	-
2 外皮性能		-	-	3.0	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	-	-	-
<b>2.2 湿度制御</b>		-	-	-	-	3.0	-	-
<b>2.3 空調方式</b>		-	-	-	-	3.0	-	-
<b>3 光・視環境</b>		-	-	-	-	-	-	-
<b>3.1 昼光利用</b>		-	-	-	-	-	-	-
1 昼光率		-	-	-	-	3.0	-	-
2 方位別開口		-	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備		-	-	-	-	-	-	-
<b>3.2 グレア対策</b>		-	-	-	-	-	-	-
1 昼光制御		-	-	-	-	-	-	-
<b>3.3 照度</b>		-	-	-	-	-	-	-
<b>3.4 照明制御</b>		-	-	-	-	3.0	-	-
<b>4 空気質環境</b>		-	-	-	-	-	-	-
<b>4.1 発生源対策</b>		-	-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質	建築基準法を満たしている。	-	-	-	-	-	-	-
2 アスベスト対策		-	-	-	-	-	-	-
<b>4.2 換気</b>		-	-	-	-	-	-	-
1 換気量		-	-	-	-	-	-	-
2 自然換気性能		-	-	-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-	3.0	-	-
<b>4.3 運用管理</b>		-	-	-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		-	-	-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.43	-	-	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>		-	-	-	-	-	-	-
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		-	-	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性		-	-	-	-	3.0	-	-
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	3.0	-	-
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	-	-	-
<b>1.2 心理性・快適性</b>		-	-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観		-	-	-	-	3.0	-	-
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	-	-	-
3 内装計画		-	-	-	-	-	-	-
<b>1.3 維持管理</b>		-	-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-	-	-
3 衛生管理業務		-	-	-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.9</b>	0.50	-	-	-	-	<b>2.9</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.0</b>	0.50	-	-	-	-	-
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	-	-	-
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-	-	-
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	-	-	-

2.4 信頼性	1 空調・換気設備		2.6	0.20	-	-	
	2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3 電気設備		1.0	0.20	-	-	
	4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5 通信・情報設備	無停電 電源装置を採用しています。		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			4.2	0.50	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり	階高平均5.7m	5.0	0.30	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	計算より0.08確保されています。	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		設備機器を考慮して荷重計算しています。	5.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性		3.0	0.40	-	-	
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	防犯監視モニタの設置	2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm 非住宅 0.92 住宅(専有部) -	3.0	0.63	-	3.0
	集合住宅以外の評価(3a.3b)	工場部照明のみ判定となり、LED仕様としています。	3.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価(3c)		-	-	-	-	
4 効率的運用			2.5	0.25	-	-	2.5
	集合住宅以外の評価		2.5	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング		3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	便所、水栓は、省エネ対応品の機器を採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	鉄骨造としている。	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤		-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮			排出率51%	4.9	0.33	-	4.9
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	荷捌きスペースの確保をしている。	4.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	定期的に有価物を回収している。	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音		3.0	0.33	-	-	
	2 振動		3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県

# 重点項目シート

使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2015年版

## 1 建物概要

建物名称	株式会社ロッテ狭山工場 製品自動倉庫 建設計画	BEE	1.0	BEEランク
------	----------------------------	-----	-----	--------

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO <sub>2</sub> の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
4.9	+	2.0	=	6.9
				
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上	
				

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO<sub>2</sub>の削減</b>		<b>スコア平均 4.9</b>
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >		
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア <b>4.9</b>
工場用途となり倉庫部分の照明をLEDとしてあります。		
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		<b>スコア平均 2.0</b>
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >		
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア <b>1.0</b>
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア <b>3.0</b>
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア <b>2.0</b>
地表面に緑地を設け舗装面を出来るだけ少なくしてあります。		

: 入力欄